

# 平成 24 年度研究成果情報

課題名: 貧酸素水塊からの避難を想定したサルボウ標識個体の移植試験

## [背景・ねらい]

サルボウの漁獲量は、近年、夏季の小潮期を中心に発達する貧酸素水塊による大量斃死のため、漸減傾向となっている。このため、本県では、サルボウ漁場環境の斃死リスク要因を数値化して作成したリスクマップを基に、移植等による管理手法を提案しているが、本県サルボウ漁場において、移植後のサルボウの成育状況を調査した事例はない。

そこで今回、福富町支所管内2ヶ所(図1)に標識付きのサルボウを放流し、ラインセクト法により移動分散や成育状況を調査した。

## [成果]

- (1) 油性塗料で標識付けしたサルボウ(移植サルボウ)を、定期的に目合 3.5 分のジョレンで曳いて回収し、移動分散状況を調査(図2)したところ、静穏な気象・海象時には、放流場所から殆ど移動しないことが確認された(図3)。
- (2) 移植したサルボウの回収率は、貧酸素水塊による斃死リスクが高い沖漁場(有区 1187)が約 20%であったの対し、リスクが低い岸漁場(有区 1192)では 50%を超える結果が得られたこと、更に回収されたサルボウの成長が良かったことから、移植の効果が確認された(図4)。

## [課題・問題点]

- ・ 同様な試験を、場所を替えて複数年実施し、移植の効果を検証する。

## [今後の対応]

- ・ 本県が作成したサルボウ漁場管理マニュアルを、効率的に漁業者に普及していく。

## [その他]

研究期間: 平成 24 年

研究担当者: 普及担当 吉田 賢二



図1 試験漁場の位置図

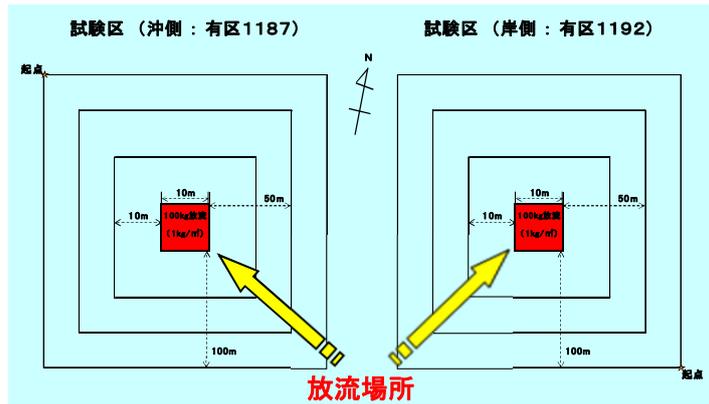


図2 移動分散状況調査(ラインセクト法)

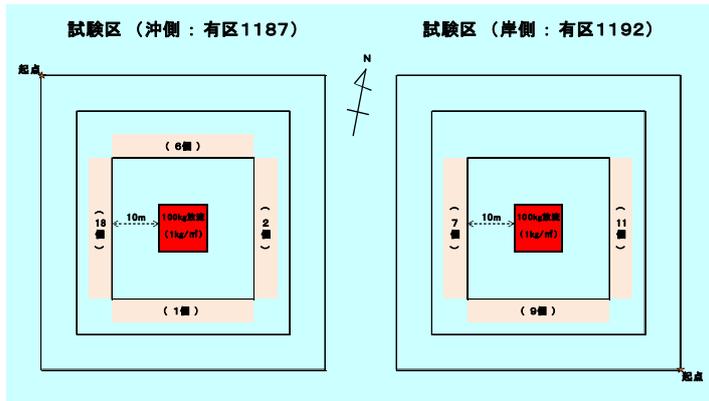


図3 移動分散状況(1ヶ月後)

項目		試験区(沖側)	試験区(岸側)
放流時	放流日	H24.5.17	
	放流数	20,000	
	殻長(mm)	26.3 ± 2.3 (22.7~31.2)	
	殻付重量(g)	5.0 ± 1.4 (3.2~8.7)	
	肥満度	16.0 ± 1.7 (11.2~19.8)	
回収時	回収日	H24.8.22	
	推定回収数(目合3.5分のジョレンで30分操業)	4,300	10,200
	殻長(mm)	27.6 ± 2.1 (22.7~33.4)	31.1 ± 3.2 (25.3~39.7)
	殻付重量(g)	6.3 ± 1.4 (4.1~11.2)	8.6 ± 2.9 (4.3~18.9)
結果	推定回収率(%)	21.5	51.0
	平均日間生長量(μm/日)	13.4	49.5

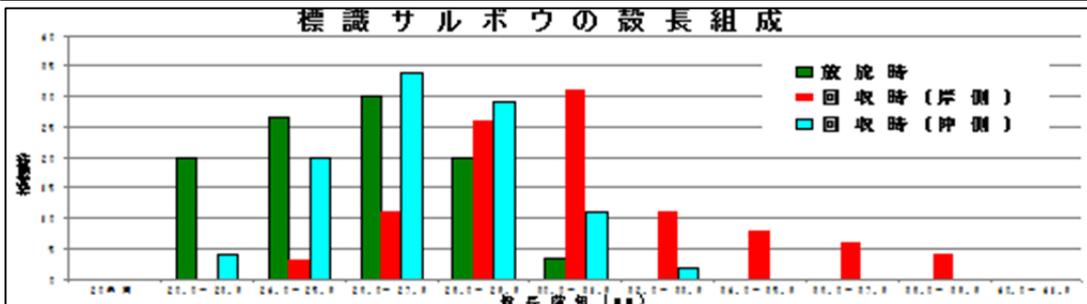


図4 標識員の回収状況